

# 市場動向を追う

①

国内の製薬産業が激変の嵐にさらされている。後発薬の数量シェアを80%にするという政府目標が掲げられ、新薬、後発薬メーカーの双方が対応に追われている。こうした環境変化は原薬・中間体企業にも当然及んでいく。後発薬向け需要の急拡大に端的にみられるように、ビジネスチャンスであると同時に、対応を誤れば今後の企業存続にさえ影響を及ぼしかねない。安定供給や品質保証力、コスト競争力など、「真の実力」が試されることになるだろう。関連業界の動向を追った。

## 激変期の製薬産業

新しい後発薬目標は、後発薬の特許切れ製品の合計におけるシェアを2017年央に70%以上、

18年度から20年度末までの間の早い時期に80%以上にするという内容。18年度では長期収載品と呼ばれる特許切れ製品に依存し

ていた従来よりも大幅な速度向上を迫られる。変わる事業モデル



# 後発薬台頭、問われる実力

後発薬メーカーの増産投資が活発化している（沢井製薬の関東工場）

る傾向にあることから、開発競争は一段と厳しさを増す。一方で、政府も有望な新薬への優遇策を推進。オープンイノベーションの活用など新時代に対応した取り組みに成功した企業だけが生き残ることになる。

医薬品原料メーカーは、こうした新薬メーカーの動きに連携していくことが求められる。場合によっては研究開発から一体的な取り組みを進め差異化を図ることも一層積

また、後発薬業界はシ

極化していかなければならない。

ジャパンライフサイエンスウィーク 2016

CPHI Japan

4月20～22日 東京ビッグサイトで開催

エア80%時代に向け、少なくとも向こう数年間の市場拡大を約束された一方で、安定供給を維持しながらシェア目標を達成するという責任を担うことになる。専業メーカーだけでなく、新薬メーカーや外資系大手も参入を本格化しており、競争条件は新薬業界と同じく厳しい。

### 供給力拡大が課題

そのなかで最も大きな課題となっているのは、やはり供給力の拡大だ。医薬品はその性質上、欠品が出ることは許されない。万が一の際のバックアップも含め、余裕のある供給余力を持たなければならず、大手を中心に活発な設備投資や設備買収の動きが繰り広げられている。

爆発的な需要増に 대응するには、原料サイドにも供給責任が強く要求されてくる。しかも、品質面で手を抜くことは許されない。時々の規制対応に的確に対応していくことも必須条件だろう。逆にいえば、製薬産業との信頼関係を確固としたうえで従来以上に相互の情報交換を緊密化し、これらの条件をクリアしていければ、激変する市場でも勝機を見いだせるはずだ。